

	学校だより おやまがおか ～全ては、子どもたちの笑顔のために！～	町田市立小山ヶ丘小学校 校長 大川 優 2025（令和 7）年 11月28日 発行 第283号
〒194-0215 町田市小山ヶ丘五丁目37番 電話 042-770-6251 FAX 042-770-6258		

「共に生きる」

校長 大川 優

昨年度の学校だより9月号でご紹介いたしました「東京2025デフリンピック」(100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催)が、先週水曜日、11月26日まで開催されていました。「デフリンピック」とは、デフ+オリンピックのことで、デフ(Deaf)とは英語で「耳が聞こえない・聞こえにくい」という意味です。すなわち、デフリンピックは、国際的な「聞こえない・聞こえにくい方のためのオリンピック」です。

世界中から聴覚に不自由があるアスリートたちが東京に参集し、日々積み重ねてきた努力の成果を全力で発揮している姿に心を動かされました。競技に向かう選手の姿は、「人は誰もが、自分の力を発揮できる」という希望と可能性を感じさせてくれました。競技の進行には、手話や視覚でのコミュニケーションが取り入れられ、お互いを尊重し合う工夫がありました。そこには、「一人一人の違いを大切にし、その人らしさを認め合う」といった人権への確かな理解があり、当たり前だけれども大切なメッセージが込められていることを改めて感じました。

スポーツには、個々の違いを超え、人と人をつなぎ、社会を前に動かす力があります。競い合いながら、互いを尊重し合うその舞台は、人と社会のかかわり方の在るべき姿を示しています。デフリンピックは、誰もが参加し挑戦できる環境の重要性や、多様性を力へ変える可能性をも示しているのではないのでしょうか。この大会を通じて、「聞こえる・聞こえない」といった境界を超え、互いを理解し支え合う社会の在り方を見つめ直したいと思いました。また、偏見や障壁を取り除くことが、どれほど豊かな未来を切り開いていくことにつながるのかを考えずにはいられませんでした。

がおかにも、様々な個性や考えをもつ子どもたちがいます。その一人一人の違いを尊重し、どの子どもも安心して学ぶことができ、自分らしさを発揮できる学校にするのは、私たち教職員の責務です。教育の質は、所属教職員の姿勢によって大きく変わります。だからこそ、私たちは、自らの人権感覚や人権意識を見直したり、高めたりし続けていかなければなりません。

今後も、子どもたちの「笑顔」があふれ、互いの良さに気づき、認め合い、支え合うことのできる、温かな「がおか」となるよう「人権教育」「特別支援教育」を一層推進し、よりよい指導・支援に努めてまいりますので、皆様のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。